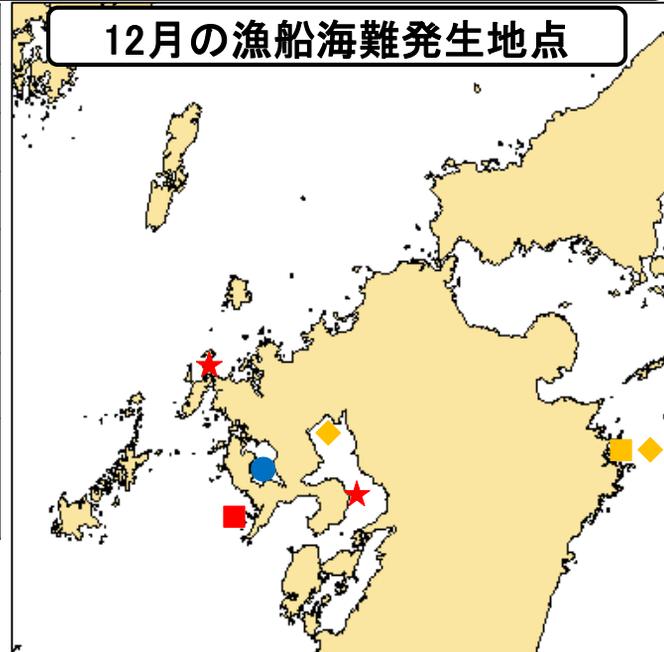


令和3年12月発生
七管内漁船海難 計8隻

令和3年12月累計 92隻 (前年96隻)
漁船海難発生隻数は前年に比べ **4隻減少**

漁船海難隻数 (速報値)		
衝突	★	3
運航不能 (推進器障害)	■	1
運航不能 (機関故障)	■	1
運航不能 (その他)	◆	2
浸水	●	1
合計 8隻 (昨年 7隻) 死亡、行方不明者: 0件		

	県別内訳	
	12月	令和3年累計
山口県	0	10 (11)
福岡県	3	16 (19)
佐賀県	0	4 (5)
長崎県	3	46 (45)
大分県	2	16 (16)
合計	8隻	92隻 (96隻) ()は昨年同月

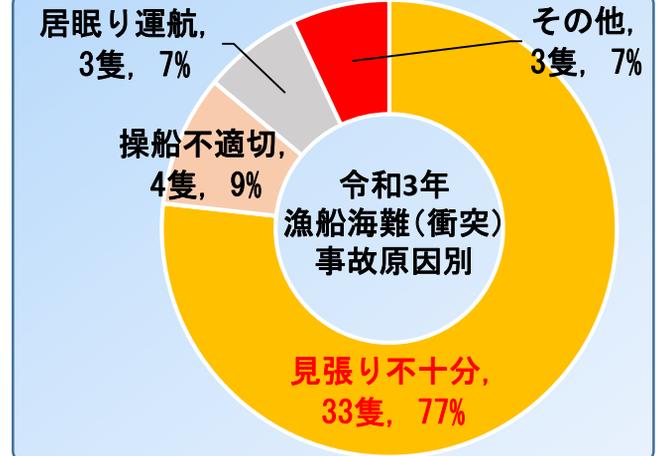


県別内訳表は、各県に所在する海上保安部署の担当海域にて発生した海難の合計数を示しています。数値は速報値です
累計死亡・行方不明者数: 7名 (令和3年12月末日現在)

前年と比べ4隻減少するも、衝突海難は約1.5倍増加！

令和3年の漁船海難は92隻発生、前年と比べて4隻減少しています。海難種類別では、**衝突43隻**(29隻)、乗揚げ9隻(13隻)、転覆1隻(1隻)、浸水4隻(12隻)、火災4隻(7隻)、運航不能31隻(機関故障、推進器障害等)(34隻)で、**衝突海難が約1.5倍増加しました。**(括弧内は前年の隻数)

事故原因別でみると、衝突海難43隻のうち、**見張り不十分が33隻と全体の約8割を占めています。**



【事例】
漁船A丸(6名乗組)は、長崎県長崎市の三重式見港で水揚げ後、定係港へ航行を開始した。当時の操船者は船長1名であったが、周囲に船影を認めなかったことから、トイレ休憩のため、操舵交代を行わず、自動操舵とし、船橋を無人にした。
その後、船長は船橋へ戻ってきたものの、前方のプレジャーボートB丸(1名乗組)に気付くことも無く衝突した。衝突の衝撃でB丸は転覆し、乗船者が海に投げ出された。B丸の乗船者は、漁船の乗組員により引き揚げられたが、死亡が確認された。

ひとたび衝突海難が発生すれば、自船の損傷や乗船者の負傷のみならず、他船を巻き込み、上記事例のように相手船の乗船者を死亡させる事故に発展する可能性があります。**安全運航のために常時適切な見張りを実施することは操船者の義務です。船舶の事故防止と乗船者の安全は、海のプロであるあなたの気持ち次第です！安全運航にご協力をお願いします！**